

事業報告書

令和6年度

[令和6年4月1日から令和7年3月31日まで]

学校法人 白江学園

1. 法人の概要

①名称：学校法人 白江学園[昭和27年11月11日法人設立]

②住所等：大阪府大阪市東成区大今里4-16-23

電話番号 (06) 6971-0381

ファックス (06) 6976-5753

ホームページ <https://www.kumano.ed.jp> 熊野幼稚園

ホームページ <https://www.nakahama.ed.jp> 中浜幼稚園

③設置する学校

A. 学校の名称：熊野幼稚園

定員：315名

実員：93名（令和6年5月1日現在）

B. 学校の名称：中浜幼稚園

定員：310名

実員：113名（令和6年5月1日現在）

④理事長氏名：白江佐訪子

* 理事6人、評議員13人、監事2人、定例理事会年3回開催

⑤教職員の状況（今年度末時点）

A. 熊野幼稚園：11人 新規採用者 0人 退職者 0人

B. 中浜幼稚園：15人 新規採用者 0人 退職者 2人

熊野幼稚園と中浜幼稚園の人事異動あり

2. 事業の概要

①教育方針

一人ひとりの人間としての尊い資質や個性は、幼稚園の教育期間中にその根をおろし、基礎が築かれるのですが、本学園の教育目標と理想は、その人の一生を決定する大きな要素となる「すこやかな健康」「ゆたかな情操」「生き生きとした自主性」そして「すぐれた知性」などを自然に、着実に、子ども一人ひとりの内に造り出すことにあります。また、将来どのような事態に遭遇しても、自分の信念にもとづいて正しい判断をくだし、実行していく心とからだを養いたいと思っています。そのためには「健康」「よい環境」「よい習慣」「ゆたかな情操と感覚」の五つの原則が必要ですが、本学園では、この原則を子ども一人ひとりの年齢、生活経験、個性などに応じて総合的に教育をすることで、望ましい社会を形成する一員となることの芽生えを養いたいと願っております。

②学年、定員、実員（内訳）学級数（R.6.5.1現在）

熊野幼稚園

年度	学級数	満3歳児	学級数	3歳児	学級数	4歳児	学級数	5歳児	計
定員	0	0名	3	105名	3	105名	3	105名	315名
R.5	0	2名	2	23名	2	36名	2	34名	95名
R.6	0	1名	2	29名	1	27名	2	36名	93名

中浜幼稚園

年度	学級数	満3歳児	学級数	3歳児	学級数	4歳児	学級数	5歳児	計
定員	0	0名	4	100名	3	105名	3	105名	310名
R.5	0	0名	2	40名	2	43名	2	51名	134名
R.6	0	2名	2	28名	2	41名	2	42名	113名

③保育時間

○開園時間　：午前８時より

○月～金曜日：午前９時～午後２時

○午前保育　：午前９時～１１時３０分（始業式、終業式等）

※土曜日、日曜日、祝日は休園日になる

（行事の都合により変更になる場合がある）

※朝１番のバスコースの場合は、上記の時間より早い登園時間になる

④保育料及び諸経費

○保育料　　：２６,５００円/月

○給食費　　：４００円/回（月によって請求金額が変わる）

○バス利用料：４,０００円（利用者のみ、年額を１２ヶ月で割っている）

○P.T.A.会費：１,２００円/月

⑤入園時の費用

○入園料　　：５０,０００円

○施設整備費：１５,０００円

⑥ホームクラス（預かり保育）

○月～金曜日　　午後２時～５時３０分

午前保育の場合　午前１１時３０分～午後５時３０分

（行事の都合により時間等の変更あり）

○長期休業中の預かり保育あり（夏休み・冬休み・春休み）

⑦行事の実施状況（状況により変更のものもあり）

○　４月/　入園式、進級式、始業式、参観日

○　５月/　避難訓練（火災）、遠足（３歳児、４歳児は親子遠足）、歯科検診

○　６月/　土曜日参観、お楽しみ会、プール開き、内科検診

○　７月/　個人懇談、七夕かざり、宿泊保育（５歳児）、終業式

○　８月/　夏休み、夏期保育

- 9月/ 始業式、避難訓練（地震）、運動会（中浜は10月）
- 10月/ お芋ほり（4歳児、5歳児）
- 11月/ 作品展、卒園親子遠足（5歳児）
- 12月/ おもちつき、人形劇観劇（3歳児）、個人懇談、終業式
- 1月/ 始業式
- 2月/ 豆まき、なわとび大会（4歳児、5歳児）、発表会
- 3月/ 園外保育、卒園式、修了式

3.財務の概要

財務状況の説明

本学校法人では、園児の就園環境を向上させるべく、毎年工事等、大規模な改修修繕を行っている。

その為、基本金組入や固定資産の減価償却費により当年度事業収支活動が赤字となっている。財務状況の改善を図るためのコスト削減に努め、社会のニーズをとらえ、教育環境設備を充実させるため英語学習ツール教材の導入や預かり保育の充実、満3歳児の募集を強化し、園児増加による財務状況の安定を図っている。